

総会報告

■NPO法人愛知スポーツ倶楽部 平成26年度12月理事会開催

去る平成26年12月2日(火)18時30分より表示灯(棟)9F小会議室において、NPO法人愛知スポーツ倶楽部の理事会が開催されました。ご多忙中にも関わらず岡本善博会長をはじめ、委任状を含め24名の出席者を得て、神戸理事長による議事進行のもと執り行われました。ご出席賜りました理事及び監事の皆様には厚く御礼を申し上げます。今回の理事会においては、次の議案が審議の上、決定されました。

①役員への労働報酬の支払いの件 ②平成27年度totoくじ助成金の申請の件

議案は、原案通り承認可決されました。①は、労働に対する対価として、規定に則り一部手当(交通費を含む)を支給するもので、役員報酬ではありません。また支給の対象となる事業は、事業自体に収入があるものとし理事長が承認したものに限られます。②はスポーツ団体スポーツ活動助成への申請で、7月から3月にかけて月1回開催していますフラテルカップが対象となります。

その他トップチーム(フラテル)の活動においては、国内大会の試合結果や日本代表の活動状況報告が行われました。ホッケー普及活動においては、中学生プロジェクトやフラテルカップの開催状況、広報交流活動においては、名古屋まつりなどへのイベント参加報告があり、閉会となりました。

2014年度公式戦スケジュール

■高円宮杯 2014ホッケー日本リーグ

期間：2014年7・10・11・12月

会場：福井(越前町宮朝日総合運動場) 奈良(親里ホッケー場) 京都(立命館大学校野ホッケー場) 福島(ルネサンス棚倉多目的広場) 宮城(栗原市築館多目的競技場) 富山(小矢部市ホッケー場) 埼玉(飯能市阿須運動公園ホッケー場) 山梨(山梨学院ホッケースタジアム)

節	日	期間	会場	試合開始	対戦相手	試合結果
第1節	第1日	7月12日(土)	福井	10:00	福井クラブ	○3-2
	第2日	7月13日(日)	福井	14:00	岐阜朝日クラブ	○5-1
第2節	第3日	10月11日(土)	奈良	12:40	ALDER飯能	○1-0
	第4日	10月12日(日)	京都	13:20	立命館大学ホリーズ	○2-1
第3節	第5日	10月25日(土)	宮城	12:40	東京農業大学	○8-2
	第6日	10月26日(日)	福島	11:40	山梨学院OCTOBER EAGLES	○4-2
第4節	第7日	11月8日(土)	富山	11:00	小矢部RED OX	
	第8日	11月9日(日)	富山	11:40	法政大学	
第5節	第9日	12月13日(土)	埼玉	14:20	Selrio島根	
	第10日	12月14日(日)	埼玉	11:40	診療印刷	
第6節	最終日	12月21日(日)	山梨	13:50	天理大学ベアーズ	

■男子第56回全日本社会人ホッケー選手権大会

期間：2014年7月18日(金)~7月23日(水)

開催地：和歌山/紀美野町スポーツ公園多目的人工芝グラウンド マツゲンスポーツグラウンド

試合結果	対戦相手
7月20日(日) 2回戦 名古屋フラテル ○6-0	樋脇ホッケークラブ
7月22日(火) 準々決勝 名古屋フラテル ○5-0	小矢部RED OX
7月22日(火) 準決勝 名古屋フラテル ○2-1	ALDER 飯能
7月23日(水) 決勝 名古屋フラテル ○2-1	箕島ホッケークラブ

■第35回東海ブロック大会兼第69回国民体育大会東海地区予選

期間：2014年8月23日(土)、24日(日)

開催地：岐阜/岐阜県グリーンスタジアム

試合結果	対戦相手
8月23日(土) 準決勝 愛知(名古屋フラテル) ○16-1	静岡県
8月24日(日) 決勝 愛知(名古屋フラテル) ○3-0	岐阜県

■第69回国民体育大会ホッケー競技

期間：2014年10月16日(木)~10月21日(火)

開催地：長崎/長崎県立佐世保青少年の天地プレイグラウンド

試合結果	対戦相手
10月18日(土) 1回戦 愛知(名古屋フラテル) ○6-2	鹿児島県
10月20日(月) 準決勝 愛知(名古屋フラテル) ○3-1	和歌山県
10月21日(火) 決勝 愛知(名古屋フラテル) ○4-0	香川県

■第88回全日本ホッケー選手権大会

期間：2014年11月21日(金)~24日(月・祝)、12月6日(土)~7日(日)

開催地：奈良/親里ホッケー場



- 発行元：特定非営利活動法人愛知スポーツ倶楽部 ●発行人：神戸 勝
- 事務局：〒450-0002 名古屋市中村区名駅四丁目2-11 ナビタ名灯ビル
- 編集人：安井妙子 ●監修：錦織 拓 ●愛知スポーツ倶楽部HP：<http://www.aichisportsclub.com/>
- メール：info@aichisportsclub.com ●名古屋フラテルHP：<http://www.frater.or.jp/>

©AICHI SPORTS CLUB ©NAGOYA FRATER HOCKEY TEAM
この冊子に掲載されている全ての情報(文字、写真、イラスト等)及び全体は編集著作物として著作権の対象となります。許可無く引用・転載複製を行うことを禁じます。

FRATER FAMILY ONLY for MEMBERS

<http://www.frater.or.jp/>



Vol.24



FRATER FAMILY

- 2014年度GAMEプレビュー
- 広報・交流プロジェクト
- Japan NEWS
- 理事会報告
- 2014年度公式戦スケジュール

Vol.24
2014.12

ONLY for MEMBERS



次号Vol.25は
2月頃発行予定

日本リーグ速報
全日本選手権結果

... e t c



私たちは toto 助成を受けています。

長崎国体 1回戦 2014年10月18日(土) VS 鹿児島県 (長崎・長崎県立佐世保青少年の天地プレイグラウンド)



愛知県 6 {前半 1-2} 2 鹿児島県 {後半 5-0}

初戦は、昨年の国体準決勝で愛知を退けた鹿児島との因縁対決。立ち上がり6分前から攻めこまれ、先制される苦しい展開となる。20分すぎから愛知がペナルティ、23分PCから#9橋が#2川上良へと繋いで、これを押しこみ1-1の同点とする。しかし31分守備陣の反則により鹿児島にPSを与え、1-2と勝ち越される。後半に入り、足の止まった鹿児島に、47分#9橋がドリブルでサークルイン、ゴール前でパスを受けた#4小野が同点のシュート。続いて52分#9橋が混戦からのこぼれ球を決め、3-2と逆転する。その後も53分#13山下、61分#12吉原、62分#4小野と加点し、粘る鹿児島を6-2で撃破、昨年の雪辱戦を制して、準決勝へと駒を進めた。



長崎国体 準決勝 2014年10月20日(月) VS 和歌山県 (長崎・長崎県立佐世保青少年の天地プレイグラウンド)



愛知県 3 {前半 1-1} 1 和歌山県 {後半 2-0}

準決勝は、翌年に地元での国体を控える和歌山との対戦。開始から積極的にゴールを狙うが、ゴールマウスを捉えることはできない。逆に7分和歌山にPCから先制を許す。愛知は20分右サイドから#12吉原のセンターリングに、サークル中央へ走りこんだ#3塩川が合わせて1-1とし、同点まま前半を終える。後半開始早々、愛知が立て続けにPCを獲得し、37分監督兼選手で今大会に臨む#14粥川が左隅へシュートを決め2-1で勝ち越す。和歌山はアジア大会を共に戦った田中、坂本を軸に攻撃を組み立てるが、愛知の粘り強い守備が反撃を許さない。そして、65分PCから#2川上良がタッチシュートを決め、3-1で試合終了。2試合連続で先制を許す試合展開ながら決勝進出を決めた。



長崎国体 決勝 2014年10月21日(火) VS 香川県 (長崎・長崎県立佐世保青少年の天地プレイグラウンド)



愛知県 {濃霧・雨の為} 香川県 {ノーゲーム}

前試合(3位決定戦・和歌山vs福井)が濃霧のためノーゲーム(両者3位)となる幕明け。決勝は、三菱化学坂出から成る香川との対決、香川は県勢初の決勝進出である。霧が晴れないまま、2分遅れで愛知のセンターパスから試合開始。8分#13山下のセンターリングを#9橋がタッチし、幸先の良いスタートを切るも、直後の9分香川にゴール前の混戦から押し込まれすくさま同点とされる。その後愛知は#3塩川の中央からのパスを#12吉原が冷静に決め2-1とリード。試合は愛知ペースで進行するが、29分濃霧と強雨のため一時中断となる。天候の回復を待つが、20分の中断後ノーゲームとなり、国体規定により試合の延期はなく両者優勝となった。これにより、2年ぶり23回目の優勝を果たし、2014シーズン二つ目のタイトルを獲得した。



HOCKEY JAPAN LEAGUE 第2節 2014年10月11日(土) VS ALDER飯能 (奈良・親里ホッケー場)



名古屋フラテルホッケーチーム 1 {前半 1-0} 0 ALDER飯能 {後半 0-0}

第3戦は、毎度苦戦を強いられるALDER飯能との対戦。社会人大会準決勝での死闘が記憶に新しい。開始から予想通り両者激しい攻防でチャンスを伺う展開となる。試合が動いたのは、21分#2川上良がサークル内で相手ボールを奪い、プッシュシュートで先制点を挙げる。30分アジア大会での戦友、飯能北里のドリブルに反則を犯し、PCを献上するが得点を与えず、1点のリードを守り前半を折り返す。後半は終始フラテルペースで試合が進むも、ゴール前を堅める飯能守備陣を崩し切れず、再三のシュートチャンスにも追加点を奪えず1-0で試合終了。アジア大会から帰国した代表組とは1週間前に合流したばかりの中、全員プレーで開幕3連勝。



HOCKEY JAPAN LEAGUE 第2節 2014年10月12日(日) VS 立命館大学ホリーズ (京都・立命館大学柙野ホッケー場)



名古屋フラテルホッケーチーム 2 {前半 0-0} 1 立命館大学ホリーズ {後半 2-1}

第4戦は、四冠達成に幾度となく立ちはだかってきた、立命館大学ホリーズとの対戦。注目のゲームは序盤から激しい攻防が繰り返される。この試合最初のPCを10分立命館が獲得するが、GK#19高瀬が好セーブし、得点を許さない。フラテルも23分#12吉原がシュートを放つが枠を捉えきれず、両者無得点のまま後半へと進む。後半もスピード感溢れる試合展開の中、40分#16島山がPCからフリックで先制する。60分には#1中山が左サイドからプッシュでセンターリング、これを#6河内がタッチシュートで決め2-0と立命館を突き放す。試合終了直前の68分、立命館に速攻からリバースシュートを決められ2-1となるもそのまま試合終了。大一番を制して無傷の開幕4連勝とした。



HOCKEY JAPAN LEAGUE 第3節 2014年10月25日(土) VS 東京農業大学 (宮城・栗原市築館多目的競技場)



名古屋フラテルホッケーチーム 8 {前半 2-1} 2 東京農業大学 {後半 6-1}

第5戦は、日本リーグ初開催の地、宮城(築館)にて東京農業大学との対戦。開始から一進一退の攻防が続くが、15分#16島山が右上にフリックシュートを決め1-0とする。その後もフラテルが主導権を握るが、追加点を奪えない。24分に農大に得点を許し同点とされるが、フラテルは入部1年目の#21竹中がリバウンドを押しこみ2-1でリードし、前半終了。後半は、38分#22大門、40分PCから#16島山と追加点を重ね、4-1とするが、41分に農大に1点を返される。54分・62分#9藤本、66分#12吉原、70分#15松本が得点を決め、終わってみれば8-2で勝利を挙げた。2失点が悔やまれるも晴天の下、東北の地に5連勝を刻んだ。



HOCKEY JAPAN LEAGUE 第3節 2014年10月25日(日) VS 山梨学院OCTOBER EAGLES (福島・ルネサンス棚倉多目的広場)



名古屋フラテルホッケーチーム 4 {前半 2-2} 2 山梨学院OCTOBER EAGLES {後半 2-0}

第6戦は、近年学生チャンピオンから遠ざかっている山梨学院OCTOBER EAGLESとの対戦。会場は前日の宮城から福島(棚倉)へ移動、同じ日本リーグ初開催の地である。開始6分山梨にゴール前でパスカットされ、先制点を献上。22分#10山部が#21竹中のシュートのリバウンドを決め1-1に追いつき、27分にはオーバーラップした#3粥川のパスに反応した、#8塩川が決めて2-1。しかし30分山梨がPCからタッチシュートを決め、シーソーゲームとなる。後半、小さなミスが目立つフラテルに対し、スピードある山梨がやや押し気味で試合は進む。43分カウンターから#8塩川の左からのパスを#6河内が決め、重要な追加点を得る。57分にはPCから#16島山がフリックシュートを決めて4-2で勝利。学生チームの走力と粘りを振り切り、東北シリーズで2勝を挙げ暫定1位を守り抜いた。



広報・交流プロジェクト PICK UP!! さらスポ名古屋 in「名古屋まつり」

ホッケー体験コーナー設置 若手選手大奮闘!

『さらスポ名古屋』の活動の一環として、10月19日(日)に、「名古屋まつり」に選手9名が参加しました。「名古屋まつり」は昭和30年にスタート、今年で記念すべき開催60回を迎えました。名古屋にゆかりのある織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の英傑行列が有名で、秋を彩る名古屋最大の祭りです。

『さらスポ名古屋』のイベントスペースは、名古屋市中区栄の久屋大通公園の南部分、エンゼル広場に『さらスポ☆サーキット』と銘付った競技の体験コーナーが設置され、今回のイベントには、名古屋グランパス(サッカー)、名古屋オーシャンズ(フットサル)、名古屋サイクロンズ(アメフト)、HC名古屋(ハンドボール)、大同特殊鋼レッドスター(バレーボール)、名古屋フラテル(ホッケー)の6チームが参加しました。ホッケーはコーンの間をドリブルで通過し、最後はゴールに向かってシュートを打ち込むという初心者の方でも気軽に体

験できる内容としました。今回参加した9選手は入部1~3年目の若手選手ばかりで1年目の選手は地域のイベントには初挑戦です。参加選手たちは、体験コーナーでの指導と、ホッケー体験コーナー-PRのためのチラシ配りの二手に分かれ、来場された方に一人でも多くホッケーを体験してもらおうと、ホッケーのアピールに努めました。

選手が登場した時間帯が丁度昼食の時間帯と重なり、最初は人がまばらでしたが、昼食を終えて来場される方は次第に増え、最後にはホッケー体験コーナーに行列ができるほどの大盛況ぶりとなりました。選手はスティックの握り方や身体の使い方を手取り足取り丁寧に教えていきました。その中、名古屋グランパスのチームマスコット「グ

ランパスくん」もホッケーの体験に来てくれました。

また、コーナー横に設置された櫓に急速登壇するチャンスも頂けました。突然のことに選手皆緊張の面持ちでしたが、チームの紹介や競技の特徴などを説明し、任務を全うしてくれました。

短い時間ではありましたが、多くの市民の皆様と楽しい時間を共有することができました。大会で勝利を積み重ねていくことも重要な役割ですが、スポーツの楽しさや、名古屋ではまだまだ馴染みのないホッケーという競技を知ってもらうためにはこのような活動も地域クラブチームとして必要不可欠となります。今後も地域のイベントには積極的に参加していきたいと思っておりますので、機会がありましたら是非イベントにお越しください。



Road to RIO! Japan NEWS

アジア大会6位に終わる

ロンドン五輪以降、アジア大会でのリオデジャネイロ五輪の出場権獲得を新たな目標に掲げて、継続的に日本代表の強化活動が行われてきました。そして、9月20日(土)から10月2日(木)の9日間をかけて、アジア競技大会が韓国・仁川にて開催されました。4年に1度、五輪の中間年に開催される大会で、選手は日本オリンピック委員会の派遣により参加し、全38競技が行われる大規模な大会となりました。

ホッケー競技は、五輪大陸予選を兼ねているため、優勝国には五輪の出場権が与えられる大会として位置づけられています。フラテルからは13選手が選出され、大会1ヶ月前には韓国遠征を敢行、実際に大会会場でも調整を行い、万全を期して大会に臨みました。日本は、韓国、マレーシア、バングラデシュ、シンガポールの4チームと予選リーグを戦い、上位2チームになり、準決勝へ進出することがまず求められます。つまり、格下のバングラデシュ、シンガポールには確実に勝利を収め、格上の韓国、マレーシアのうち、少なくともどちらか1チームから勝ち星を挙げるか否かが第一関門となります。まず、バングラデシュ、シンガポールには大差をつけて勝利するが、韓国に敗戦。そして予選リーグ最終戦のマレーシア戦は、第1ピリオドを1-1で終えるもその後追加点を許

し、1-4で試合を終えました。5位決定戦では、中国に50戦の末、敗北を喫し、6位でアジア大会を終えました。現在は、年明けの国際大会に備え、既に新チームが結成されています。アジア大会では五輪出場権を手にはできませんでしたが、まだ出場の道が絶たれたわけではありません。今後の代表活動にも是非応援をよろしくお願いいたします。

【予選リーグ】

9月20日(土)	○日本 8-0	バングラデシュ●
23日(火)	●日本 0-4	韓国○
25日(木)	○日本 13-0	シンガポール●
27日(土)	●日本 1-4	マレーシア○

【5位決定戦】

10月2日(木)	●日本 1-1	SO 3-4	中国○
----------	---------	--------	-----